

平成29年度 宮城県栄養士会 生涯教育 研修会報告

講義必須1単位 1-1 2-2 2-5 講義1単位 2-4

① 専門職としての役割と倫理観、日本栄養士会が目指す 管理栄養士・栄養士の将来像、栄養素の消化吸収（代謝）

講師 尚絅学院大学総合人間科学部 健康栄養学科 片山一男氏

② 栄養成分（食物）と医薬品の影響

講師 東北医科薬科大学病院 薬剤部 鈴木仁志氏

平成29年12月9日アゼリアホールにて今年度第3回目の生涯教育研修会が開催されました。

前半は片山一男氏より「専門職としての役割と倫理観」「日本栄養士会が目指す管理栄養士・栄養士の将来像」「栄養素の消化吸収」について講話をいただきました。栄養士・管理栄養士は人々の健康や生命に関わる医療性の高い「栄養の指導」を業としていることから、専門職としての倫理観やエビデンスに基づいた活動が必要です。新しい情報や知見を日々取り入れなければならないことを学びました。



私達の業務の対象は人であり、疾病やデータのみを診るのではなく、心理的、社会的、経済的な側面も視野に入れ全人的な栄養指導や管理を行わなければなりません。

栄養素の消化吸収においては、三大栄養素の消化吸収、消化器官の役割や栄養素の働きについて再認識する事ができました。



後半は鈴木仁志氏より「栄養成分（食物）と医薬品の影響」について講話をいただきました。現代は食習慣の多様化や食品組成の変化と、広範囲な医薬品の使用及び増加に伴い食物と医薬品の相互作用については、詳細に知っておく必要があります。医薬品が食物に影響を及ぼす例、食品が医薬品に影響を及ぼす例について学ぶことができました。また薬の服用時間については、食前（食事の1時間前から30分）、食直前（食事の5～10分間前）、食後（食後30分以内）食間（食事の2時間後から次の食事の2時間前）など効き方にあわせ、その設定されている事がわかりました。

参加者からは、不安な部分の復習になった。適切な栄養の指導につなげたい、今回基礎的部分を詳しく学ばせていただいたので、今後自己学習でより発展させていきたいとの声をありました。（文責 小泉 香織）